

4年ぶりの開催

第69回東京都聴覚障害者大会

優生保護法の教訓から、
私たちの命と尊厳が輝く東京をともにつくる。

式典・記念講演・手話劇・福引

2027年1月23日（土） 10:00〜17:00

小平市民文化会館（ルネこだいら）

主催：公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構
主管：東京都聴覚障害者連盟
後援：東京都（予定）・小平市（予定）
協力：小平市聴力障害者協会、小平市手話サークル、手話サークル火曜会

申込締切：1月12日（火）

地域のろう協会、または申込フォーム（QRコード）、FAX、メールから直接。
https://forms.gle/zX1YYvTosRzs4npB6
FAX・メールは、お名前（フリガナ）、東聴連（会員／賛助会員／非会員）、
お住まいの区市、連絡先（FAX番号またはメールアドレス）を記入。

申込フォーム

お問い合わせ・お申し込み先：
公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟
〒150-0011 渋谷区東1-23-3 東京聴覚障害者自立支援センター内
TEL 03-5464-6055／FAX 03-5464-6057／E-mail tfd@deaf.tokyo

開催概要・当日の流れ

会場：小平市民文化会館（ルネこだいら）
参加者1,200名（きこえない・きこえにくい人、手話関係者、
福祉・教育・行政関係者、一般都民）
参加費：会員2,500円、非会員3,500円

時刻	プログラム
9:15	開場・受付開始
10:00〜11:20	第一部 式典 挨拶、表彰、来賓紹介、祝電、会務報告、大会宣言、大会決議
11:20〜12:00	昼食・休憩
12:00〜14:00	第二部 記念講演・パネルディスカッション
14:00〜14:30	休憩
14:30〜16:30	第三部 手話劇「尊い命」
16:30〜17:00	福引
17:00	閉会

「完全参加と平等」の理念のもと、都内のきこえない・きこえにくい人の当事者団体唯一の公益法人として、きこえない・きこえにくい人に関わる問題の啓発・解決に向けた連帯をめざす。

第二部 パネルディスカッション

優生思想を乗り越え、
私たちの命と尊厳が輝く東京を共につくるために

コーディネーター：唯藤 節子（大会実行委員長・東京都聴覚障害者連盟副会長）
登壇者：尾上 敬子 氏、関哉 直人 氏、長瀬 修 氏。会場からの質問も交えて議論します。

1. 【意識の変革】学校・地域・行政における優生思想・オーディズム根絶に向けた啓発活動の推進
2. 【制度の具体化】各区市町村の手話言語条例・差別解消条例の実効性を高め、情報アクセシビリティを保障する予算と体制の確立
3. 【地域のバリアフリー】災害時の情報保障や行政窓口での手話通訳配置など、ろう者が不利益を被らないインフラへの改善

12:30〜14:30　第二部

記念講演

歴史を胸に、未来へ紡ぐ尊厳と権利

優生保護法の教訓と障害者権利条約が拓く東京の未来

2024年の最高裁違憲判決と国との和解、補償法の成立で裁判は歴史的決着を迎えました。しかし、「きこえる能力」を絶対的な基準とすることで、少数派（マイノリティ）の言語や文化の存在が見落とされてしまう「オーディズム」や「優生思想」との闘いは、いまだ終わっていません。国際社会・司法・当事者の視点から学び、各区市町村から差別と偏見を根絶する具体的な行動を起こします。



尾上 敬子 氏

旧優生保護法被害者・違憲訴訟愛知原告

奪われた尊厳を取り戻す闘い：私の人生と、最高裁判決に込めた願い

1975年に聴覚障害を理由に不妊手術を強いられ、2022年に仮名で提訴。2024年3月の地裁勝訴を機に実名を公表。同年7月の最高裁違憲判決を経て、11月に国との和解が成立。現在は障害者差別解消への啓発活動を続けています。

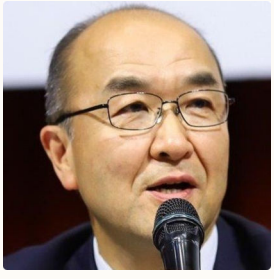


関哉 直人 氏

弁護士、優生保護法被害東京弁護団団長

優生保護法裁判の歴史的決着と、東京都・地域における今後の課題

最高裁勝利の意義と補償問題、ろう者の人権・コミュニケーションの権利を保障する法的視点を報告。長年障害者の権利擁護に尽力し、2024年7月の最高裁違憲・賠償判決の獲得に大きく貢献。内閣府や東京都の障害者差別解消支援地域協議会等の委員も歴任。



長瀬 修 氏

JDF政策委員、インクルージョン・インターナショナル事務総長

日本の旧優生保護法の経験と教訓の国際的共有

国連本部サイドイベントを報告。障害学研究者。立命館大学生存学研究所上席研究員。障害学会国際委員会委員長、障害法学会理事。編書に『障害者権利条約の初回対日審査：総括所見の分析』（法律文化社、2024年、共編）など。

14:30～16:30　第三部 手話劇

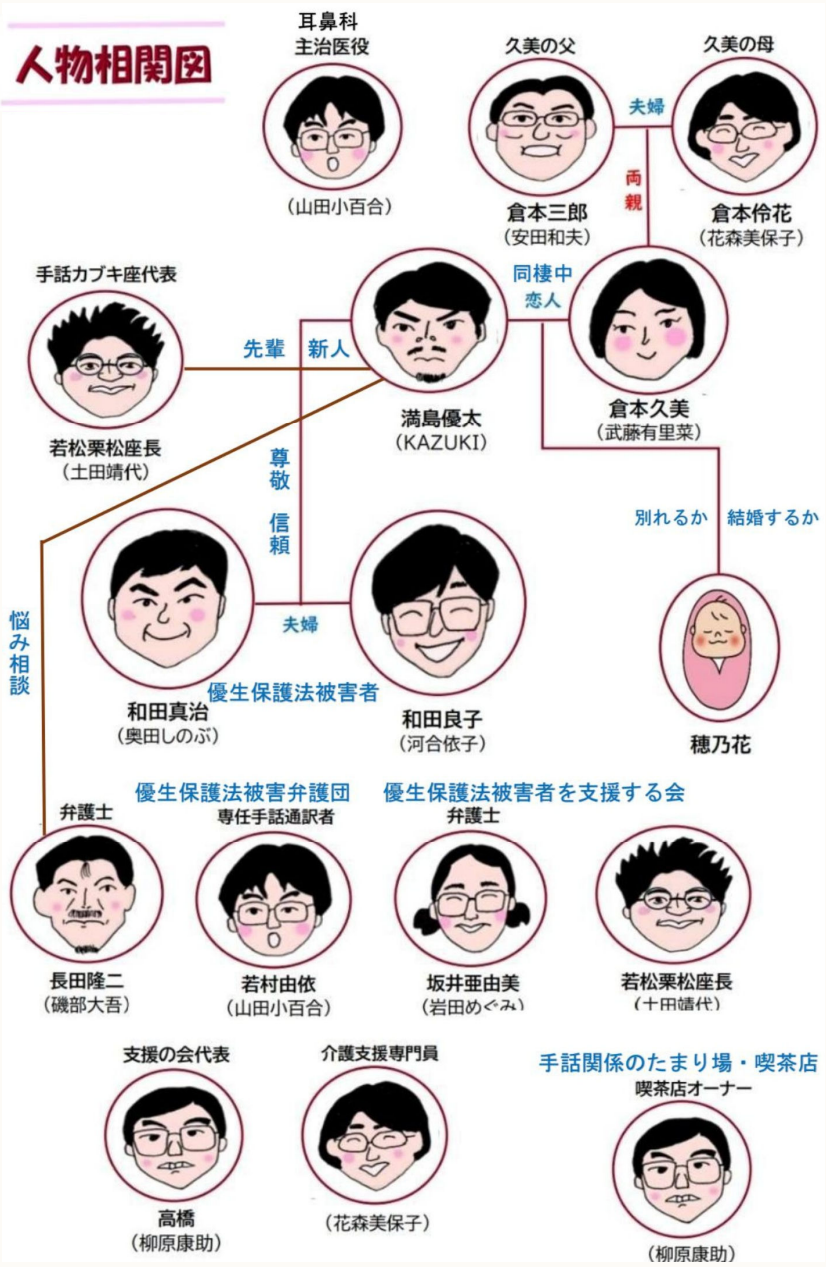
尊い命（とうといいのち）

～あきらめない気持ちを持ち続けて～

岐阜ろう劇団いぶき×上演台本・演出 庄崎隆志
令和7年度「障害者の生涯学習支援活動」
文部科学大臣表彰受賞。



演出家・劇作家 庄崎隆志





ずっと隣で見
守っているよ



今ここにいることが尊いんだ



【あらすじ】

物語の主人公は、同棲２年目を迎えながら、なかなか将来に希望を見出せずにいる聴覚障害を持つ若い男女。お互いに結婚を意識して付き合っていたことから、優太との同棲を選んだ久美。そんなある日、自分が妊娠していることがわかり……。同棲中の彼氏を応援しながら過ごしていた久美でしたが、突然、２人に別れの危機が訪れます。久美は、彼女の両親から「優太君と別れてほしい」と告げられ、戸惑います。その理由は、「もし子どもが聴覚障害だったら、あなたたちも苦労するのではないか」というものでした。一方、久美は冷静に考えた末、優太に「一緒にいる未来が見えない。きっぱり別れて、別の道を歩んでほしい」と伝えます。身近な人からの偏見におびえる優太は、やがて旧優生保護法による強制不妊手術の被害者である「老夫婦」と出会います。「老夫婦」から語られる、想像を絶する過去。優太と「老夫婦」は、お互いの存在に影響を受けながら、それぞれの人生と向き合っていきます。果たして、２人は新たな一歩を踏み出すことができるのでしょうか。

【演出 note】

上演作品は旧優生保護法の歴史と向き合いながら「命の尊さ」「人は誰と生き、どう生きたいのか」を問いかける物語です。優生保護法・強制不妊手術の被害者とはいったい？聴覚障害を持つ若者たちが向き合う現実を通して、皆さまも一緒に考えていただければ幸いです。

この戯曲を、さまざまな動き、手話ポエム、歌舞伎、そしてパーカッションの生演奏を交えて上演します。主に手話言語による上演で、ときおり声や字幕による表現も取り入れています。